

令和元年度・第3回
秋田県の人材を育てるために行動する社長会議（議事録）

日時： 令和2年2月17日(金) 16:00～17:00
場所： 秋田キャッスルホテル 4階 矢留の間

1. 開会

2. 意見交換会

●保坂（秋田地域振興局長）

それでは議事を進めたいと思う。次第では議題の（1）（2）今年度の活動報告と来年度の取り組みについて分けられているが、事務局からまとめて説明をお願いする。

●事務局（秋田地域振興局地域企画課 渡邊）

資料1について、ご存知の通り官民連携による人材確保プロジェクトは、地元企業の採用力向上、離職率低下、認知度向上を官民が連携して実践することで、県内外の若者の県内就職定着を促進し、秋田県の人口の社会減を抑制しようというもの。

今年度は、第1回目の社長会議を7月16日に開催し、事前に行ったアンケートをもとに人材確保や定着に関する意見交換、協議を行ったほか、第2回目は11月19日に、県外経営者の講演会として、広島県の株式会社カスタムから戸田社長をお招きして参考となる話を伺った。

実践行動としては、高校2年生向けの企業ガイダンスに多数の企業にご参加いただいたほか、先ほどお話しした株式会社カスタムの戸田社長の講演会を参考に、若者の力、やる気を引き出すという観点から、若手社員異業種交流会を試験的に実施した。

このような取り組みを進めていく中で、課題も明らかになってきた。1点目は大学生向けのPRが難しいということ。今年度当初の計画では県内大学と連携して、社長会議企業の説明会を開催したいと考えていたが、資料2にあるとおり県内大学を訪問した結果、大学でも説明会に学生を集めるのに苦労している状況であるほか、PRイベントを開催しても県主催や民間主催のイベントが複数あり、学生から見てもどれを選べよいかわからないという状況で、新規に社長会議の企業説明会を行うのは難しいというのが各大学の反応だった。

2点目は企業により欲しい人材が異なること。資料3の2ページ目の中ほ「（3）採用したい学歴について」という質問事項に対する回答は、大学と高校がはっきり分かれている。大学生を欲しい企業もあれば、高校生を欲しいという企業もある中で、県の事業は高校生や中学生向けの企業説明会は充実しているが、大学生向けの事業をどう強化していくのが課題となっている。

3点目は意見交換や協議で出た意見の共有は十分図られているが、意見が出尽くした状況であり、今後はより実践行動の割合を増やしていくことがプロジェクトの目標達成に近づくのではないかと考えている。

このような課題を踏まえ、来年度の活動案を作成した。社長会議の開催は3回程度としているが、定期的に行うというよりはテーマをしっかりと決めて開催したい。例えば外国人材の活用についてあまり議論になっていないが、これをテーマに勉強会や先進事例の発表をするというものもよいのではないかと考えている。資料に例として挙げたのは、離職者を企業同士が紹介する制度ということで、以前の会議で話題になったものを深掘りすることをテーマにするのも良いと考えている。

実践行動については、大学生向けのPRで県内大学と連携した説明会の実施は難しいということで、別の切り口となるが、秋田大学の授業への参加と株式会社向学舎グループのアルバイト学生向けの企業説明会を開催したいと考えている。

秋田大学の授業への参加については、社長会議に参加しているウェブインパクトの秋元さんが受

け持っている授業があり、この授業に社長会議から2～3社程度、ゲストとして登壇し、トークセッションをするというもの。授業の日程は4月23日と5月7日の木曜日、授業の時間帯は午後4時10分から午後5時40分でこのうちの50分ぐらいをトークセッションに充てるということです。トークセッションの内容、テーマは、学生から希望とって決定するというのですが、例えば「大学生活で何をしておいた方がよいか」「最初の就職先は大企業がよいか中小ベンチャーがよいか」「地元で就職した方がよいか都会で就職した方がよいか」などが考えられるとのことでした。後日参加希望を取りたいと思うが、授業が2回で2～3社程度という制限がございますので、場合によって調整という形になることをご了承いただきたい。

株式会社向学舎グループのアルバイト学生向けの企業説明会については、本日までご出席いただいている中村社長のご厚意がありましたので、ぜひ実施したいと考えている。日程は6月28日日曜日を予定しており、場所は向学舎グループの秋田駅東口の校舎をお貸しいただけるという話になっている。時間も午前、午後の2部制も可能ということですので、より多くの学生にPRするため、そのように進めていきたいと考えている。中学生向けのガイダンスに参加したことがある企業はイメージしやすいと思うが各教室に企業がブースを構えて、学生が訪問するようなイメージで考えている。こちらでも後日参加希望を取りたい。

高校生向けの事業は例年通り、就職活動が本格化する前の高校2年生向けの企業ガイダンスを予定している。今年度は11月に開催しておりますが、来年度も同じような時期になると思う。

中学生向けの企業ガイダンスは、今年度までは管内の中学校2校で実施していたが、来年度は、4校に増やして開催し、加えてアルヴェを会場に複数の中学校を集めての実施という形もとりたいと考えている。現在中学校に対して参加の意向調査を行っており、詳細が決まったらお知らせする。

最後に、離職防止について、先ほど少し触れたが2月5日に若手社員異業種交流会を試験的に開催した。資料4に内容を載せているが、結果を申しますと、参加者アンケートでは満足度は高く理解度も高かったということで一定の成果はあったのではないかと考えている。理想は若手社員が自ら動き出して自主的な交流が生まれることが目標になりますが、何らかの形で続けてその方向に向かっていきたい。詳細はこれから検討するが、ワークショップ形式であったり他の形式ができるかどうかということも考えていきたい。ご出席の企業にも若手社員異業種交流会に、参加いただいた企業があるので、ご意見、感想などいただきたい。

他にも人材の定着に繋がるような取り組み、例えば、広島県のキャストムの社長の話であった、出会いの場を作るという、B-withのような取り組みですとか、新入社員の教育をするメンター社員同士が悩みを共有するような取り組みなどが考えられるが、人材の確保とセットで社長会議として何か取り組めるものがあるかということもご意見をいただきたい。

●保坂（秋田地域振興局長）

今年度の事業実績や成果を踏まえて、資料1の裏面の令和2年度の活動案について、社長会議でどういう方向性を持って来年度進めるかご意見をいただきたいと思うが、今の説明でご質問があればお受けしたい。

●清水（株式会社清水組）

企業説明会はいろんな場所でやっている。建設業に関して言うと、県と建設業協会がタイアップしてやるものや担い手センターでやるもの、振興局でやるものがあり、そこにどの高校が来るかというのもあると思うが、役所内で調整してもらいたい。

高校生は動員を頑張ってくれるが、大学等の企業説明会に関して言えば企業の方が多いと感じるときがあるので、ぜひ集客をお願いしたい。

●保坂（秋田地域振興局長）

大学については社長会議の企業でもあまり接点がないため、資料にあるとおり県内大学での説明会を検討し、意見交換を行ったが現状は難しい。そこで、今回、株式会社向学舎グループの中村社長からの提案で、6月28日に秋田駅東校の校舎を使ってアルバイト学生に企業説明会を開催していただけるとのことなので、中村社長からご説明いただければと思う。

●中村（株式会社向学舎グループ）

6月という時期が良いのかわからないのが、4月からの日曜日が全て予定が入っており、最短で6月28日となった。

アルバイト学生は120人から150人位いる。大学1年生から4年生と大学院生もおり、秋田県立大学、秋田大学、国際教養大学の三つの大学の学生がいる。とはいえ、ただでは学生も来ないと思うので、10時から12時までなら2時間の業務をつける。それと、まだ社内調整はとれていないが、友人紹介カードという1人紹介してくれたら1,000円とか2,000円を付ける友人紹介という形で、できるだけ多く集めたい。

午前と午後の部を設け、校舎を丸ごと空けるので、教室数でいうと10弱くらい取れる。1つの教室で2社ぐらいずつ入れれば、1回で20社程度できると思う。

業種によってはどんな人が来るのか気になると思うので、例えば教育学部の人とか理系の人とかというようにセグメントしながらご紹介できたら良いのかなと思う。

●小林（秋田県立大学）

大学の就職支援チームにも年間のガイダンススケジュールがあるので、企業説明会の開催は難しいという話になるが、拒否しているわけではなく、企業が個別に来れば大学の中で展開するので、それはぜひやってもらいたいし、今でもやっている。それぞれの企業が、募集のために大学に来たければそれは十分対応可能。そこは間違えないようお願いしたい。

●中村（株式会社向学舎グループ）

アルバイト学生は、全員が教育学部ということではない。先生になりたいかということでもなく、いろんなタイプがいる。

全員が来れば一番良いが、部活動などもあるので、できるだけ頑張ってみるが過度に期待しないでほしい。

●保坂（秋田地域振興局長）

せっかくこういう機会作っていただくので、ぜひ参加をお願いしたい。次年度の事業として新しい取り組みだが、開催する方向でいきたい。

先ほど清水社長から話があった、高校生の説明会の部署間での調整についてだが、確かに建設業協会とか、学校別にも説明会をやっていて、参加する企業からすれば大変だということだが、全学校で均等に説明会の機会を提供していくのは大事だと思う。

ただその調整する中において、時期が集中するのか、複数回開催するより1回だけきちんとやって伝わるようにすればよいのかというところの課題などをもう一度ご説明いただきたい。

●清水（株式会社清水組）

建設業界では、普通高校にも説明会をしていくということで、新屋高校などでも行っている。新屋高校のときは、建設業が先ではなく他の業種と一緒に誘ってということで、それであれば、同じような趣旨で同じような場所に違う担当部署の企画として行っている感じを受ける。

建設業は業界的な話をまず教えて、その業界の中でうちの会社はいいよという話をしたいので、国交省とタイアップして出前講座を金農、秋田工業、秋田高専で行っている。業種ごとに各学校で授業し、こんな仕事があるということを知らしめると地元就職につながると思う。秋田に仕事は何もないと思っている人が意外と多く、学校の先生も最近でこそ建設業のことを私が詳しく話すので楽しそうと思っている。

●保坂（秋田地域振興局長）

これについて、事務局の方から何かあるか。

●事務局（秋田地域振興局地域企画課 渡邊）

来年度事業で、秋田大学地域文化学科 1 年生のキャリアデザイン基礎という授業への参加というのがございますけれども、高校などにも出前授業っていう形でできれば良いと思う。

関係機関との調整については、調整してみたい。

●保坂（秋田地域振興局長）

まだ調整段階だが、新しい取り組みとして明桜高校で企業説明会を実施することを協議している。参加していただけるかもお尋ねしたい。

●佐藤（秋田地域振興局 総務企画部長）

いろんな所で同じようなことをしていると対象がダブってしまうというか、特に工業高校系は建設業で企業説明会、出前講座を行っているのは私も認識している。ただ、進学校をどうするかという問題はありますが、全ての高校にということでは、秋田県は私立高校は多くはないがそちらが手薄と考え、11月に明桜高校に局長と一緒に押しかけて、内諾を取った。それから、和洋高校と国学館高校でも2月26日に企業説明会を行う予定で、ご参加いただける企業もあるのではないかと。

もちろん、中学校でも高校でも開催した形になるが、高校に関しては建設とか教育庁と話をし、いつも企業説明会に来ない高校に出かけようと企画している。明桜高校は企業説明会に来ておらず、全然知らなかったということなので、まずやってみようとなった。

その上で、私たちはいつも清水社長の顔を見ていて感じている。できるだけ効率的にやっていきたいので、ご理解いただきたい。決して同じことを2回やろうとしているわけではなく、新しいターゲットを目指して、その方向に合う方にできるだけ参加してもらおう形で、業種の枠を超えていきたい。引き続きよろしく願います。

●保坂（秋田地域振興局長）

高校に対しても枠を広げていく、それから学校の方に入っていきという新しい取り組みをやろうとしているが、それについてもご意見いただければと思う。

●後藤（社会福祉法人久盛会）

建設業界も大変だと聞いているが、今、病院でも介護は処遇改善交付金により介護保険の処遇が上がっているものの、病院は今回も結局上がることなく改善されない状態で、看護補助者を集めることができない。ただ、仕事の中身としては命を預かる仕事でもあり、また働きながら資格を上げていくという説明をさせてもらえば、ぜひ高校生にも、先ほどなるほどと思ったが和洋高校や国学館高校も女性が多いので、そういった道もあるよと説明できれば良いと思う。あと手前味噌になるが、秋田の高校生でも1度は東京に行ってみようという方がいるので、そういう意味で説明をさせてもらえば、東京に3年間働いたら安心して秋田に帰ってこれるというようなキャリアデザインを作れるという話も入れることができる。

高校の出前講座や授業等あれば、積極的に出させてもらいたいと思う。ぜひ声をかけてほしい。

●保坂（秋田地域振興局長）

それから、ウェブインパクトの秋元さんは今日欠席だが、秋田大学のキャリア授業の中にゲストトークセッションとして、2～3社参加するというのも新しい取り組み。これも、希望する全ての企業が出ることは難しいと思うが、募集をかければ来ていただけるか。事業として進めさせてもらいたい。

中学生の関係も今までは2校で開催していたが、来年度は2校拡大して4校にするということ、学校に行くのではなくアルヴェの1階と2階を使って、中学校の生徒に来てもらう形で、規模を大きくして開催したいと考えている。600人ぐらいの生徒を集めたいということで教育委員会と調整しているので、それについてもぜひ参加をお願いしたい。

それから、社長会議のテーマで先ほど事務局から外国人の活用方法というか、技能実習生の受入の先進的な事例を勉強したらどうかという1つの例示が出たが、これを含めて社長会議で議論したいテーマがあれば承りたいと思う。

●杉本（株式会社RB advance）

人材の採用の話は、私が思うに県から出て行く人を少なくして、戻ってくる人を多くして、たくさんの子供を産んでもらって、ということが根っこにありながらお話をしていると思う。

その中でスポンジになるのは、各企業の企業力、体力で、そこは絶対的なところになっている。業種でいうとちはサービスだが、建設もあればいろいろな業種がある中で、秋田県で上場している会社は、減ったのかもしれないが2社とか3社とかで、下手をすれば青森にも負けている。そういった部分を各業界で作っていきこうという取り組みは民間で勝手にやればよいのだが、そうならない事実もあるので、そういった部分を先導ではないが、目指してみたいかと思う。そういう話はちょっと違うのか。

●佐藤（秋田地域振興局 総務企画部長）

個人的な意見だが、懇親会で社長会議はどうなれば終わるのかという話があり、私の結論は社長会議の中から上場企業が出たらやめることで、実は同じ話だと思う。

会社が儲けないと採用できないし、人が増えないと全部が全部県外のマーケットでやっていけるわけでもないの、県内のマーケットを大きくしながらやっていくとなると、どうしても秋田県内の人口が増えるように、そうすると会社が儲けてもらわないといけない。そのときには、一時的に全国展開をして、秋田に本社があって上場してもらうということは非常に大切なことだと思う。

そういう意味でここに出席されている社長さん方は、上場できるチャンスがある方だと思っているので、例えばこういう形で皆で上場するべという意見交換があっても良いのかなと思いますし、そうなるべきだと思う。

それこそ何月までに上場するかということとは言えないと思うが、上場企業が出てくるのが、社長会議の最終的な1つの目標だと思う。杉本社長の話は的を射ているものと思う。

●杉本（株式会社RB advance）

全てが上場ではないだろうが、せっかく秋田の優秀な社長が集まる機会でもあるので、そういう角度の話がないといけないのではないかな。高校生の求人も良いが、違う話を厚くしていく方が良いのかなというのは個人的に思った。

●保坂（秋田地域振興局長）

今年、新たな取り組みとして離職防止対策の若手社員業種交流会を実施させていただいた。今日ご参加の企業で正和会からも社員を出していただいたが、社員の感想を含めて、来年のあり方などについてご意見いただきたい。

●玉井（医療法人正和会）

詳しい話は聞いていないが、私が所属してる事業管理部からも1名参加し、たまたま同じ中学校の先輩がいたり、同じ年代の方が揃ったということで、話が盛り上って結構楽しかったという話は聞いている。

●小林（秋田県立大学）

いろんなところで同じような話があるが、こういう事業に参加する人は離職しない。一番問題なのは離職をする本当の理由とその根底にあるものは何なのかということ。会社の業態なり、会社の方針なりがそこに通じていて、こういう事業をやると、出て来る人はみんな前向きな人。こういう人たちも大いにエンカレッジする部分は良いのだが、本当に出てこない人たちが何を考えて離職をしたのかという部分は、必ずしもここだけじゃ繋がらない気がするが、いかがか。

●保坂（秋田地域振興局長）

資料4で、若い社員に仕事の悩みということで自由記載していただいたが、こういう場に集まってくればストレートな意見は出てきているという感じがする。ただ、小林学長の言うように、優秀

な人が会社の代表として出てきているので、確かにその問題がある。

やり方について、小林学長の話聞いて何かご意見はないか。ホームテックの進藤社長にも社員を出していただいたが、どうか。

●進藤（ホームテック株式会社）

当社からは、昨年の4月に高卒で入社した女性3名が参加した。皆19歳で、少し結婚とかには向かないが、参加して楽しかったという話と、仲良くなったのでまた同じメンバーでやりたいという話だった。また、同じような境遇にある人たちが同じような悩みを持っているということで、少し安心したという話を聞いて、自分だけじゃないということがわかって良かったと思う。

当社は3名とか会社の規模の割に無理をして採っているが、同期の繋がりや悩みを共有できる人がいなければ会社の離職率を下げることは難しいと思っており、そういう意味でこの規模を大きくしていくと、県内企業の離職率が減ることに繋がる可能性はあると感じている。

●保坂（秋田地域振興局長）

本荘電気の橘さんはいかがか。

●橘（本荘電気工業株式会社）

弊社からは2名出席した。いずれも技術職で、専門高校を卒業して1年目の社員と、高校を卒業後1年目の社員。私のアナウンスが足りなかったと反省をしているが、何をしに行くのかがわかっていなかった。そういう意味で進藤社長もおっしゃったように、来年も続けていってその輪が広がっていけばと思う。

幹部社員の会議はよくあるが、若手や中堅の意見を聞く機会というのは少なく、一つの悩みでもある。今年の4月から若手社員の会議やミーティングを企画しようとしており、社内でも社外でもいいが交流の場を多くしていただければ、繋がりも増えていくのかなという感想を持っている。

●保坂（秋田地域振興局長）

参加した15人のアンケート結果を見ても、「また参加したい」という回答が7名で、「内容によっては参加したい」が8名だった。前向きに捉えており、満足度も「とても満足」が10名、「満足」が4名、「普通」が1名で、効果は高かったと思っている。今のご意見も踏まえて事業を具体化する時に皆さんからご意見をいただき、継続の方向性で進めたい。

もう一つ離職防止で、若者の交流の場を作るほかに、その若者を教育する社員、いわゆるメンター社員、教育する立場の方々も情報交換なり、悩みを聞く場を作ったらどうかという話があるが、ただ社長会議として踏み込む必要はないというご議論をいただいたことがある。

それで今回はその事業については案として出していないが、メンター社員の悩みを聞くとか情報交換をすとか、あるいは上手くいってる企業のボトムアップを測るとか内容についてはこれから皆さんの意見を聞いて、もし必要であれば考えていきたいと思うが、メンター社員に対する事業について、この会議での取り扱いをどのようにしたらいいか悩んでいる。

●遠藤（株式会社遠藤設計事務所）

当社もメンター社員を昨年度から任命して、記憶は定かではないが資格とまではいかないが、講習会を受けてメンター社員になっている。それが今回の取り組みに繋がるのかどうかは別にしても、会社でも非常に助かっており、若手も生活、業務上の悩み等、結構相談しているし、飲み会もつき合っているので、そのメンター社員に対して厚く保護してあげるとか、そういったものも必要になってくると思うので、そういう事業があってもいいと思っている。

●保坂（秋田地域振興局長）

内容は研修がよいのか、こちらからのアドバイスが良いのか、その辺のイメージが具体化していない。ご意見あればお願いします。

●中村（株式会社向学舎グループ）

去年1年間、若手の有望株にメンターをつけたが、うちは若手が若手の話を聞くというのがまだ未熟で、それで基本的に部長クラスをつけて話を聞いたりしたが、そのうちの1人は3月いっぱい退職することになり、メンターが効いてないというのが正直なところ。

今思ったのは、アンケートの最後の質問で、レクレーションでバーベキューとか球技大会をやりたいたいというのが大多数の回答だとしたら、それをやればいいと思った。企業対抗で球技大会もいいし、終わってから進藤さんのところを無料で借りてバーベキューをやると非常にいいと思う。

その中で、例えば、入社1年目から3年目、中堅社員、社長さんでグループ分けしてみんなでわいわいやりなさいみたいな感じでやれば、楽しい会になってみんなが繋がると思った。

●後藤（社会福祉法人久盛会）

うちも離職率低下のために、メンター制度ではないがプリセプターをつけて、どういう形で仕事をやっていくか、1年間通して職員との繋がりを見ながら離職防止につなげていく取り組みをしている。いろいろなやり方があると思うが、一人一人の力量の部分が強くなってくるので、部署間ごとのプリセプターの差をなくし、会社全体の精度を上げるためにOJT、OffJTを入れるというのはいろんな会社でやっていると思う。

官民連携の人材確保プロジェクトという話の場合、中だけで小さくやって終わってしまっただけでは、県の予算のことも含めて良くないだろう。企業でメンターのことを悩んでいるのであれば、トライアルした結果、こういうものが開発された、こういうものを発見できるという形で、外に発信しないといけない。仕組みづくりとして、広告媒体はネットぐらいしか思いつかないが、これに取り組んでやりましたと、SNSに投稿して意見を募るとか、トライアンドエラーを組みながらやっていくことができればもっと活気が出てくると思う。

●保坂（秋田地域振興局長）

有意義なご意見だと思う。参考にさせていただき次につなげていきたい。この場で、来年度の事業が完璧にできなくても、1回目の社長会議でご意見をいただいて進めたい。会議の前に皆さんの意見をまとめる必要がある場合は事務局からアンケート等を取らせていただきたい。

こちらからの提案は以上だが、他に何かご発言はないか。秋田銀行県庁支店長の原岡さんから話いただきたい。

●原岡（秋田銀行県庁支店長）

私は以前人事にいて、かつて100名という単位で採用していたが、最近では採用したくてもなかなか集まらない。今、総人員は期首で1,400人台、1,500人からは欠けている。ピーク時は2,100名ほどいたので、かなり減っている。今、非常に採用が難しい時代で、どうやって採用したらいいのか。採用の仕方が悪いのか。そもそも人がいないのか。ということも含めて分析しているが、非常に苦戦している。

そんな中、いろんなお話が聞けてよかったと思うし、フリーランスのお話も非常にありがたかった。関わりとなると実はなくて、もしかしたら今後、関わっていけるんじゃないかと感じた。そういう点で今日の議題もよかった。

●小林（秋田県立大学）

この会議は、すごくうまくいっていると思う。会議をやることだけで終わってしまうのが結構多いが、ここの会議はいろんなアイデアが盛り込まれていて、会議に繋がっているのが、非常にいい会議だと思う。フリーランスの話も意図をもって企画したわけで、こういう企画をするのはすごく良いこと。来年度も先ほどの説明をうまくまとめて、計画にすれば十分やっていける。

いずれ会議を続けて、最後に出てくるのがそれぞれの企業の魅力なり、企業の将来をどう見るかというところに全部行き着くと思うので、その辺の話をどう織り込んでいくかというのが大きな課題と思う。その辺は、県だけではそこを細かく分析することはできないので、会議をやりながら、並行して課題抽出をして別途考えて会議に挙げてもらえれば、もっと重層的な運営が可能じゃない

かなと思う。全体としてすごく面白い会議と思う。

●保坂（秋田地域振興局長）

議題の（３）その他だが、事務局やご参加の皆様から発言はないか。（なし）これで会議を閉会する。

3. 閉会